

文部科学省  
インクルーシブな学校運営モデル事業通信

# インクル

NO.4 令和6年12月19日(木)発行



発行 北海道七飯養護学校  
七飯町立七飯中学校

今年も残すところ数日となりました。学校ももうすぐ2学期を終え、七飯中学校は26日から、七飯養護学校は27日から冬休みに入ります。どの子にとっても楽しく、充実した冬休みになることを願っています。

さて、本モデル事業の取組ですが、第3号では9月30日に行われた「第2回連携協議会」の様子についてお知らせいたしました。今号では、その後の取組についてお知らせいたします。

## ～北嶋校長による講話～

11月26日から始まるインクルーシブな学校運営モデル事業の交流及び共同学習の前に、インクルーシブ教育についての学習を深めたいという七飯中学校からの要請があり、11月15日に七飯養護学校の北嶋校長が七飯中学校第1学年を対象に、「七飯中学校第1学年の皆さんへ」と題して講話をしました。主な内容は、「七飯中学校生徒の体育祭や学校祭の取組の中で見られた、自ら進んで行動する姿や互いに協力し合う姿が大変に素晴らしいこと」、「日本は国連から『障がいのある子どもたちを分ける教育を止めましょう』という要請を受けたが、日本は今の仕組みを生かしながら、全ての子どもが平等な教育を受けられるように取り組むと決め、その実現に向け本モデル事業を推進していること」、「両校の先生方はすでに一緒に研修していること」、「生徒同士もこれから3回交流をすること」等が話されました。さらに、「校長自身が障がいのある子どもを担当したときの経験談」や「これから交流する七飯養護学校中学部第1学年の様子」、「今回の交流を通して、特別支援学校の生徒の心情に思いを巡らせ理解してほしいこと」、「交流の様子を他の人にも伝えてほしいこと」、「将来、町で会ったとき、交流の体験を思い出し、声を掛けてほしいこと」等、多岐に渡ってお話しされました。最後に、「電動車椅子で生活している友人とのエピソード」等を話され、講話を終りました。どの子も真剣な顔で聞き入っていたのが印象的でした。

講話後の生徒の感想に「自分の力だけで生活できなかったり、道具が必要だったりする人がいるんだということを改めて実感しました。そういう人のことを学び、手助けしてあげるべきではないかと感じました。言葉でも、少しの行動でも役に立つことがあるんだと感じました。」とありました。七飯中の生徒は、何度も頷きながら、とても真剣に聞いていました。



## 交流及び共同学習

本モデル事業における交流及び共同学習が、予定どおり3回実施されました。日時や内容、取組の様子等については以下のとおりです。

<1回目の活動：11月26日(火)10:30～11:10>

オンラインによる交流で、互いの教室やホールをつないで行いました。始めに七飯養護の生徒が一人一人自己紹介をしました。名前と好きなことや好きな食べ物などを発表しました。





その後、学習発表会でも行った「ひとりぼっちの羊かい」のダンスを披露しました。とても元気よく踊ることができました。

次に、七飯中の生徒の発表でした。A～C組の順に自分たちの学級の特徴や個性的で面白い人、パフォーマンスが得意な人、学校祭での合唱曲等を披露してくれました。どのクラスも工夫を凝らした発表でした。お互いのことを知ることができ、次回の対面による活動につながる楽しいオンライン交流となりました。

### <2回目の活動：12月3日（火）10：30～11：20>

いよいよ七飯中学校体育館での対面による活動です。先に、七飯養護の生徒が体育館に入り、七飯中の生徒が入ってくるのを待ちました。やや緊張した面持ちで待っていましたが、七飯中学校101人の生徒を前に、臆することなく対面することができました。七飯中の生徒も明るい笑顔で対面してくれたので、お互いに違和感なく活動に入ることができました。元気よく始めの挨拶をした後、グループごとに自己紹介をしました。名前と好きなことや好きな食べ物などを紹介し合いました。和気あいあいとした雰囲気、子どもたち同士もすぐに打ち解けた感じがしました。子どもの力はすごいなと思いました。

その後、ウォーミングアップで「ともよ」を全員で踊りました。七飯中の生徒も見よう見まねながら、一生懸命踊っていました。体も温まったところで、ペットボトルボウリングが始まりました。七飯養護の生徒と七飯中の生徒がペアになり、1投目を七飯養護の生徒が投げ、2投目は七飯中の生徒が投げてスペアを狙います。思ったより難しかったようで、なかなかストライクやスペアが出ませんでした。ボールが投げられるたびに、歓声やため息が聞こえていました。最後に各チームのスコアが発表されましたが、点数に関係なく両校の生徒から大きな拍手が響くことがとても素晴らしいと感じました。

次の競技はボール運びリレーです。担架に大きなバランスボールを載せ、4人1チーム（七飯養護の生徒1、七飯中の生徒3）で担架の端を持って走ります。ボールを落とさないように4人で協力し、お互いを支え合いながら一生懸命に大きなボールを運んでいる姿が見られました。紅白対抗で行いましたが、今回は紅の勝利でした。



### <3回目の活動：12月13日（金）10：30～11：20>



交流活動の最後となる3回目は、2回目とほぼ同じ内容の活動をしました。前回はボウリングやボール運びリレーの進行がスムーズにいかなかったり、場所移動等で戸惑いがあったりしたため、若干の時間オーバーがありました。今回は前回の経験を生かし、スムーズに活動が進められたため、時間的に余裕が出て、それぞれフリーに交流を深める時間を持つことができました。子どもたち同士も前回より慣れた様子で声を掛け合ったり、微笑み合ったりと、たいへん盛り上がりました。両校の生徒にとって、とても貴重な時間となりました。

最後に、両校代表生徒が感想を発表しました。七飯養護代表の生徒は、「ともよが楽しかったです。」と、

感想を述べてくれました。七飯中代表の生徒は、「初めての交流でしたが、私たち七中生も一人一人に寄り添い交流することができました。大変良い交流をさせていただきありがとうございました。また来年の交流もよろしくお願いします。」と、感想を述べてくれました。

交流及び共同学習を始める前は、大人数の七飯中の生徒と少人数の七飯養護の生徒の交流ということで、どうなるのかなという不安がありました。そんな心配はどこ吹く風でした。両校の子どもたちのもつ力の大きさに感服するばかりの交流及び共同学習でした。

なお、今回の交流及び共同学習を実施するに当たり、改めて両校の子どもたちや第1学年の先生方、陰に陽に御協力いただいた各先生方に心から感謝いたします。また、寒い中、足を運んでいただき、子どもたちの頑張りに温かい拍手を送っていただいた保護者や関係者の皆様、学習の一環として参観してくれた七飯高校生徒の皆様にも心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

本モデル事業の今年度の取組もまだ、以下のような内容が残っていますが、さらに、次年度以降の取組においても両校の生徒や先生方、御支援をいただいている関係各所の皆様のお力をお借りし、本モデル事業を実りあるものとするよう頑張ってお参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ＜今後の予定＞

- ◆ 第2回初任段階研修（2～4年次）
  - ・日時 令和6年12月20日（金）14：00～15：00
  - ・場所 七飯養護学校中学部ホール
  
- ◆ 令和6年度 成果発表会
  - ・日時 令和7年 1月16日（木）15：30～16：45
  - ・場所 七飯養護学校体育館
  
- ◆ 第3回連携協議会
  - ・日時 令和7年 2月18日（水）午後（開始時刻は調整中）
  - ・場所 七飯養護学校視聴覚室
  
- ◆ 第2回教員合同校内研修
  - ・日時 令和7年 2月26日（水）14：30～15：30
  - ・場所 七飯町文化センター スターホール

